

# 令和7年度 文科省優良公民館表彰受賞



2月6日(金)



第781号  
 発行人 ● 豊丘村公民館  
 館長 市澤和宏  
 編集人 ● 長野県下伊那郡  
 豊丘村公民館報  
 編集委員会  
 0265-35-9066  
 印刷所 ● 龍共印刷株式会社

私たちの村  
 (3月1日現在 ※外国人を含む)  
 男 3,225人  
 女 3,212人  
 総人口 6,437人  
 世帯数 2,262戸

## 「微力だけれど無力ではない」 SDGs・ESD推進拠点としての 活動が評価

公民館長 市澤和宏

二月六日(金)に文部科学省東館第一講堂にて「第七十八回優良公民館表彰(文部科学大臣表彰)」をいただき、まいりました(全国で六十館。翌週九日(月

には下平村長に受賞の報告をさせていただきました。「微力だけれど無力ではない」のキャッチフレーズのもとSDGs・ESD推進拠点として学校や広く地域住民の皆さんへ発信する取り組みが評価されました。本表彰は、社会教育や家庭教育の振興・推進において、特に効果を上げて他の模範と認められる取組等に対して、公民館や同等の社会教育活動を行う施設のうち、特に事業内容・方法等に工夫をこらし地域住民の学習活動に大きく貢献しているものに対し、その功績をたたえ、表彰するものです(昭和二十三年より実施、今回で七十八回目)。

公民館長を拝命し三ヶ月後SDGs・ESD推進拠点施設としての方向を定め、活動を続けてまいりました。当初は暗中模索の中でのスタートでした。SDGsに

公民館からの視察など機会をいただきました。SDGsのお話をさせていただいた回数は二十七回、延千人超の方々と一緒に勉強することができとても良い経験になっています。

これを通じ今言えることは、SDGs推進には公民館はふさわしい立ち位置にあること、決して新しい事業を行うのではなく、今までの事業をSDGsの視点で見つめ直し、それぞれにSDGsを見つけ出し、見つけた小さなことを一人一人が行うこと。そして一番

は豊丘・日本再発見、これがSDGs目標達成に繋がるということです。今回の受賞は豊丘村公民館に対しご理解ご協力いただいた村民のみならず、これまで公民館運営にご尽力された諸先輩、現場で運営の下支えを担ってこられた主事さん、分館関係者のみなさま、運営審議会を始め関係機関のみならずのお力添えによるものから感謝申し上げます。公民館内にて賞状・記念品を展示中です。ぜひお立ち寄り下さい。



## 中学校人権学習 満蒙開拓について学ぶ

人権学習で学んだ事、  
 印象に残った事  
 豊丘中学校一年  
 宮内ひな

私は十二月と二月、その二回で満蒙開拓について学びました。十二月は中学三年生の先輩方から学びました。まず、満蒙開拓で「満州国」に送り出された農業移民を満蒙開拓団ということを知りました。私たちが住む長野県は満州移民が一番多い県で、なぜそんなに

も多くの人が満州国へ送り出されたか考えるために満蒙開拓の移民について私は調べてみました。すると、「拓け満州へ行け満州へ」という満州国への移民を募集している写真を見つけた。そして、教科書には満蒙開拓青少年義勇軍という十六、十九歳の少年たちが満州国へ送り出されたことが満州国へ送り出されたことと書いてありました。その少年たちの募集の仕方は、マンガのような形で、文章には「とび出せ大陸へ」や「家

の為に国の為に必要なのです」などで分かりやすく参加できるようにしていました。私は「人の役に立ちたい」、「助けたい」などの優しい気持ちから日本の移民が多い、たくさんの人々が満州国へ送り出された理由だと考えました。

二月には胡桃澤伸さんから満州国で起きたことを学びました。私が一番印象に残っている出来事は、満蒙開拓団の人々が満州で中国人にまわりを囲まれてし

殺していったそうです。その時、一人の少年が「手伝って！」と叫びました。その内容は私の日常で言われることと全く違っていました。自分たちが殺すことでした。自分

が、悲しいです。私は、この日本で過去にこんな事があったことを、実際に満州国へは行っていませんが、自分なりに伝えていきたいです。



2月3日 中学校人権講演会

吉田 裕

段立  
 あつという間に春が来ました。春というより初夏かもしれません。今年も新一年生が元気に学校に通うようになりまます。「早寝、早起き、朝ごはん」最近ではあまり聞かなくなりましたが、私達が子育てをしてきた頃は、子供たちに合わせて、親も早起きして一緒に朝ごはんを食べ、子供たちを見送り、学校からは子供たちが走る爆風スランプの「ランナー」が聞こえていました。今は聞こえません。朝、体を動かした子供たちが疲労で授業に集中できないとのこと。その頃の子供達も集中できていなかったのでしょうか? 「早寝、早起き、朝ごはん」をしていればそんなことは起きないのです。今の子供達はSNS、インターネット、一番は親の都合で、「早寝、早起き、朝ごはん」が難しくなっているのかもしれない。親世代は仕事も一番忙しい時期です。色々大変なんです。しかし、子供がよい方に向かっている。一番うれしいのは親なのです。今は人生百年といわれる時代。子育ての時期はあっという間に終わってしまします。かわいいわが子のために親から「早寝、早起き、朝ごはん」しませんか? いや、早寝は難しいから「親は早起き、朝ごはん」でいきましよう。(吉田 裕)

# 公民館報「とよおか」リニューアルについて

豊丘村公民館では、公民館報「とよおか」の発刊から七十年を節目に、館報リニューアル検討委員会を設け、リニューアルについて検討してまいりました。来月号(四月号)からデザインや内容を刷新いたします。今月号では、リニューアル検討委員会での検討経過をご報告いたします。

## 寄せられたご意見

- 文字を大きくしてほしい
- 文字数が多い
- 写真を増やしたらどうか

## デザインについて

見やすい紙面構成と、できるだけ文字を大きくするように検討してまいります。リニューアル後は、現在よりも文字を大きく、写真も多くし、幅広い世代が見やすい紙面となる予定です。

## 内容について

### 館報に掲載してほしいもの 館報に求めるもの

- 公民館登録グループの紹介
- 分館の活動紹介
- 個人、団体等で成果を出している人の紹介
- 活躍している人の紹介
- 村民の皆さんの日頃の思いや出来事
- 一般村民の声や投稿
- 村にまつわる想い

## 寄せられたご意見

- 若者が喜ぶ・ためになる記事
- 様々な年齢の方の意見
- 若い人が興味を引く内容
- 若い人の夢、将来の希望を持てるもの

## 幅広い世代に向けて

このように、地域の団体や人物の紹介、ひとの想いや声といった内容を掲載してほしいというお声を多数いただきました。リニューアル後は、公民館登録グループ・体協加盟団体の活動や、分館の活動を紹介します。フォークスを当てた連載もはじまる予定です。また、村民の皆さまの声につきましては、投稿をいただいた際に、随時掲載させていただきます。



また、アンケートの回答者についても、全体の割合のうち、三十代が二割、四十代が十割に留まり、若い世代の関心が低いことがうかがわれます。若い世代にも関心を寄せてもらえる紙面にするため、検討委員会でも協議を進めてまいりました。リニューアル後は、デザイン面と内容面との両方で、若い世代にも手に取り、読んでもらえる工夫をしています。

いただいたご意見をできる限り反映し、多くの皆さまに読んでいただき、関心を持ってもらえる紙面を目指します。取材や寄稿の依頼があった際には、ぜひご協力をお願いいたします。また、投稿もお待ちしております。来月から新たな館報となりますが、引き続き愛読をよろしくお願いたします。リニューアル内容の詳細は、来月号にてご紹介させていただきます。(館報編集委員会)

**新備品**  
モルツのをご活用ください!

公民館に「ニュースポーツ用品」「モルツ(室内用)」が仲間入りしました。モルツはフィンランド発祥のアウトドアスポーツ。棒を投げてピンを倒すシンプルルールで、体力差に関係なく、子どもから高齢者までどなたでも楽しめます。

貸出場所…ゆめあてて 利用料…無料



(公民館)

今年号をもって私が執筆する「歌は世につれ」は最終となります。このコーナーは、「何か新企画ない?」と問われ、提案したところ、「じゃあ言い出しつてがまず書いてみて」と言われたのが始まりです。皆さんの投稿を想定して、当初は投稿を呼びかけていたが投稿がなく、結局自身が書き続けることとなった次第です。(一時期崎さんが隔月で執筆)。ところで、タイトルの「歌は世につれ」の「つれ」は何だと思いませんか?「れえええ」ではないのですよ。込めた意味合いは二つあります。一つは、「歌は世につれ世は歌につれ」の「世は歌につれ」を想起していただければという思い。もう一つ

「見やすい紙面構成と、できるだけ文字を大きくするように検討してまいります。リニューアル後は、現在よりも文字を大きく、写真も多くし、幅広い世代が見やすい紙面となる予定です。」

このように、地域の団体や人物の紹介、ひとの想いや声といった内容を掲載してほしいというお声を多数いただきました。

このように、若い世代向けの記事も必要というご意見も多くいただきました。

「歌は世につれ」は最終となります。このコーナーは、「何か新企画ない?」と問われ、提案したところ、「じゃあ言い出しつてがまず書いてみて」と言われたのが始まりです。皆さんの投稿を想定して、当初は投稿を呼びかけていたが投稿がなく、結局自身が書き続けることとなった次第です。(一時期崎さんが隔月で執筆)。ところで、タイトルの「歌は世につれ」の「つれ」は何だと思いませんか?「れえええ」ではないのですよ。込めた意味合いは二つあります。一つは、「歌は世につれ世は歌につれ」の「世は歌につれ」を想起していただければという思い。もう一つ

「見やすい紙面構成と、できるだけ文字を大きくするように検討してまいります。リニューアル後は、現在よりも文字を大きく、写真も多くし、幅広い世代が見やすい紙面となる予定です。」

このように、地域の団体や人物の紹介、ひとの想いや声といった内容を掲載してほしいというお声を多数いただきました。

このように、若い世代向けの記事も必要というご意見も多くいただきました。

## 歌は世につれ〜(五十二話)

### 執筆の終わりに…『人生を語らず』

上佐原 小池 光好

「人生を語らず」で締めさせていただきます。また、「まだ越えていくものがあるから今は人生を語れない」といったメッセージも込められています。長い坂を登る途中で振り返るのではなく、坂を下りる途中で上にいる人達に手を振りながら、「今はまだ人生を語らず」と呟くような爺さんになればと思います。「ご愛読ありがとうございます。」

「人生を語らず」には、挫折や敗北を経験した若者に対し、「人生の構築途上にある者は人生という言葉で過去を振り返るべきでない」などと歌われています。人生を語るにはまだ若過ぎる、人生を語るよりも今を精一杯生きるべきだ、というニュアンスが含まれ、人生の経験を語るよりも未来に向かって進むべきだとい



マイクをにぎる〇年前の小生

**夢みた遠か地平線**  
その34(最終回) 伊那谷からも創りたい、世界との多文化交流と友好  
北市場 福澤郁文

春を迎え、伊那谷には草花の生命がいたるところに甦り、華やいできています。故郷の豊丘に戻り六年目の春だ。自らの人生を顧みて書き連ねてきた。よりよい未来を築くには何ができるか考える。いま日本の各地にみられる、若者たちの都市圏への人材流出は大きな問題である。かくいう私も約六十年余り、人生の大半は都市圏での生活であったのではあるが、いま、この地に住みながら少子化問題や、農業はじめ一次産業の衰退など無視できない問題を実感している。

**若者たちの都会への流出**  
現代社会はスマホはじめ受け取る情報量も増大し、それに伴い若者の欲望も、果てしなく拡大していくかのようだ。

新政権も自国経済の成長を煽るかのよう威勢がいいのではあるが、地方創生など未来へのデザインは提示されない。若者らの都市への人口流出は、労働力のみならず、地域の文化の創造においても不安がのこる。文化を創り出すのは若者たちである。彼らが多様な人たちの交流の機会をもち、持続的にその関係を深めていくことは、智を生み出し特有の文

化の継続性にもつながるのではないかと。異なる他者と交わることで、新しい文化も創造できるのではないだろうか。

学校教育の場のみならず、地域を含め社会教育の現場づくりも必要だ。近未来に向けて若者育成への取り組みは、かつてないほど必要になってきている。

この伊那谷の行政の区域を超えたネットワークで、創造的な新たな文化活動を創り出せないかと考えてみたい。

この地域で育てられてきた公民館活動のような形態は、大都会のコミュニティにはみられないものである。

若者世代を軸にした、地域における社会活動や彼らの創造性は、現在の学校教育の枠内では得られないものだ。文化交流ははじめ地域の創成は、若者の育成でもある。彼らが社会的な活動への参加をはじめ、創造性のある学びの場を意識的に創り出していかないと、いままです以上の都会のもつ魔力に絡めとられてしまうのではないかと思う。

**新しい風を伊那谷に呼び込むには**  
豊丘村というこの地域出身者のなかに都市圏で活躍する方々も多く存在する。諸先輩たちとの経験と智を活かした交流や、文化活動などを創り出すことはもちろん、海外はじめ異質な文化をもつ人びとと共に、地域の若者を育てていくことができないうか考える。多分野の人びとや海外の人びとまでが、この地に集まり、そして、共に未来地域社会を築き上げていく試みをしてみたいと思う。

教育機関、学校とは異なる空間での若者たちの出会いは、彼らにしても刺激的なものとなるだろうし、地域の文化の創造にもつながる新しい風も吹くだろう。

私たちは国家主義的な考えに追随するのではなく、あらためて他地域の人びとの関係性を生み出し、共に学びグローバルな創造的な未来への社会像を、若者たちとイメージしてみたい。

首都圏の人びとのみでなく、アジアを初め、世界の異なる文化圏からも人びとが集まり、多様な世界を学ぶことのできる場を生み出し、地域空間にも彩りのある春の風が吹くような文化を、各地域に生み出したいものだ。

人と人が出会い、文化の交流を創り出すことが、グローバルで豊かな地域社会の魅力にもつながっていくと考える。

春、桜が咲き誇り、各地で祭典が始まると華や季節がくる。山の稜線はたおやかな曲線を見せ、いつせいに麓まで新緑に彩られる。

この季節の野山は生命の息吹とともに活力を増していく。

夢みた遠か地平線は未来に続く「元」



ベンガルの田園は地平線へと続く



### 戦争の思い出

日下部勝次

私の戦地での思い出の中からいくつか書かせていただきます。

#### その一

昭和十七年だと思いが、第一次長沙作戦の反転作戦のときであった。山の間の道を反転してきたとき突然、山の上より敵の機関銃が一斉に撃ってきた。五十メートルくらい離れたところに敵の弾を逃れる土手があった。隊長は早く土手へ隠れるよう命令したが、銃弾の砂煙の中でバタバタと兵と馬が倒れた。私は夢中で土手の陰へ走った。九死に一

生を得たという感じであった。一時間くらいして戦いは終わりがついていた。今は十月五日午前十時。河野大宮神社祭典の日。村のみなさんが武運長久を祈ってくださったのだと思ひ、わたしは思わず日本の空に向かって手を合わせた。

#### その二

昭和十九年のこと。漢口を後にしてまた長沙の方へ作戦が進められた。長沙の近くに三日ばかり駐屯したことがあった。

そのとき物資(食糧)を探しに行った兵隊が、十九歳と二十歳になる中国人姉妹を連れてきた。それを見た中国人男子(日本軍が使っていた)が「娘が日本の兵隊の玩具にされたのは悲しい。分隊長、何とかしてください」と言ってきた。そこで私は「ヨシ」といって、二人の娘を中国人男子に責任を持たせ、昼夜とも兵隊には手をつけさせなかった。それで私は兵隊にうらまれたこともあった。数日して中国人から、娘の父親がほかの部隊に苦力

#### その三

昭和二十年八月十五日、香港の近く深圳というところで敗戦を知った。九月初め、イギリス軍による武装解除を受け香港対岸の九龍の捕虜収容所に入れられた。それから苦しい捕虜生活が始まった。少ない食糧で毎日の重労働。犬のようにイギリス軍の残飯をあさる姿も見られた。コンクリートの土間へ

(クーリー。日本軍につかまって使われる人)として連れられているとの話をきいた。

それで私はその部隊に行つて交渉し、その苦力をもらつてきて父娘三人一緒にして「もう二度と日本軍に捕まってはだめだよ。戦争が終わるまでどこかへ逃げていなさい」と言つて、日本軍のいないところへ連れていって逃がしてやりました。

この父娘は長沙市内で旅館を経営していて戦火に遭つたのですがそれから三十数年、幸福に暮らせばよかつたかと思ふことがあります。

昭和二十年八月十五日、香港の近く深圳というところで敗戦を知った。九月初め、イギリス軍による武装解除を受け香港対岸の九龍の捕虜収容所に入れられた。それから苦しい捕虜生活が始まった。少ない食糧で毎日の重労働。犬のようにイギリス軍の残飯をあさる姿も見られた。コンクリートの土間へ

毛布一枚ずつで寝たがだんだん寒くなつてくると眠れないので、労働に出た帰りに枯れ草を取つて少しづつ選んで毛布の下へ敷いた。風呂は一回も入れなかった。病人が出て栄養失調で死んでいった人もいた。

デマが伝えられ「将校は銃殺、下士官は南方へ送られ内地に返してくれない」等々。その時は本当だと思つて前途を悲観して自殺した者もいたし、収容所から脱走しようとしてその場で射殺された者もいた。

でも私たちはお互いに励まし合つて頑張つた甲斐もあつて、二十一年一月二十八日、部隊長以下、香港より乗船することができた。二月四日には桜島の煙吐く鹿児島に入港。五日には八年ぶりに内地の土を踏んだ。その気持ちは何にもたとえようもなかった。しかし終戦前、また収容所内で亡くなった戦友の遺骨も一緒に鹿児島島の復員事務所までもつてきたので、その気持ちは複雑でありました。鹿児島島の港にひとりの老婆がいて、私たちが上陸し

てくるとよくわからない鹿児島島で「私の息子はどこにいる、まだ帰つてこないか」などと聞かれて返事に困つてしまった。今でも「岸壁の母」の歌を聞くたびにあの老婆を思い出すが、日本にはそんなお母さんが数限りなくいたのではなかつたでしょうか。

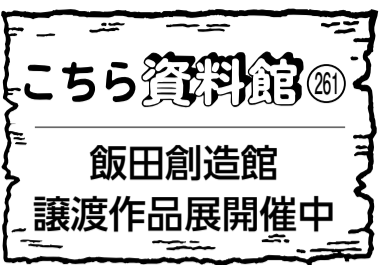
以上私の体験のほんの一部を書かせていただきましたが、戦争はしてはならないということを強く感ぜずにはいられません。

(豊丘村民話集・第三集)

(昭和五十三年)より

次号からの公民館報「とよおか」のリニューアルに伴い、この連載も最終回となります。長い間のご愛読ありがとうございました。この村には先人たちが、後世の人たちに知らせたくて書き残した話がまだまだたくさんあります。またどこかで紹介することができるよう、再会を楽しみにしています。その時はみなさんの話もお聞かせください。それではさようなら。

文責：壬生雅穂



昨年三月で閉館した飯田創造館から村に譲渡された豊丘村ゆかりの作家三人の作品十二点についてです。

片桐白登の南画九点は、昨年十月の資料館特別展で既に公開しました。残りの三点について、現在ゆめあるて玄関のガラス展示室で公開中です。是非ご覧ください。(写真右から) 「壺」(壬生鎌男 作) 「吉野」(清水史郎 作) 「阪原」(清水史郎 作) ◎作者の略歴 (壬生鎌男) ・大正十五年神稲村生まれ ・飯田創造館開館当時(昭

和五十四年)館の釜を使つて陶芸活動を行う。その後飯田市内の自宅に釜を設置し熱心に取り組む。 ・平成十九年逝去 (清水史郎) ・昭和二十年神稲村生まれ ・四十二年東京芸術大学卒業 ・新制作展入選 ・四十九年企画展入選 ・グループ展(東京) ・五十五年個展(東京) ・五十九年個展(飯田創造館) ・六十三年画廊個展(東京)

・平成四年北野美術館大賞 ・六年三人展(飯田美術) ・十三年秩父礼所絵個展 ・二十年観音堂日本画個展 以上、飯田創造館提供の資料から分かることを列記しました。これ以外のことは、清水史郎氏が生まれ当時、父親が神稲小学校の先生だった。壬生鎌男氏の本業は料理人だった。などの情報はありますが、確かなことは分かっていません。お二人について何かご存



(資料館主任 唐澤武彦)



### 移動図書のご案内

四月の移動図書

三日(金) 壬生沢福島

集落拠点施設

時間 午後八時～九時

\*伴野勤労者福祉センター

での移動図書は、第四分館の協議により令和八年の三月をもって終了となりました。今までご利用いただいた皆様ありがとうございました。

△お知らせ▽

図書館来館特典、スタンプを集めてもらえるしおりのデザインが、新年度からだんQくんに変わります!

様々なパターンのだんQくんを用意していますのでお楽しみに!

長らくキャラクターしおりを楽しんでいただき、ありがとうございます。四月一日から新デザイン五種類の中から選んでいただきます。今後ともよろしくお願いたします。

△本の紹介▽ 「飯田線ものがたり」川村カネトがつないだレールに乗って! 太田朋子・神川靖子(著) 新評論 JR飯田線の建設にアイヌ民族の測量技師だった「川村カネト」の偉業が大きく関わっていたことをご存じでしょうか。そこには天竜峡から三河川合流にかけての長野、静岡、愛知の三県にまたがる山岳地帯に鉄道敷設した苦難の歴史があります。辰野豊橋間九十四駅とその沿線の情緒あふれる風情を、「カネト」炎のアイヌ魂という一冊の児童書の歴史物語に魅了された二人の著者が取材をかさね写真も豊富に折り込み書き上げた、私達が知らなかった飯田線の歴史を再発見できるお奨めの一冊です。 『飯田線に魅せられて』線路は続く、どこまでも! 太田朋子・神川靖子(著) 新評論 好評だった前著の読者から寄せられた多くの情報を元に、さらに取材をかさね月刊「三遠南信Biz」の「私たちの飯田線」のコーナーの連載で掲載した記事に大幅に加筆してまとめた「飯田線ものがたり」の続編です。春夏秋冬の四季ごとに飯田線が織り成す「出会い」や「発見」が美しく丁寧に描かれています。全線開通九十周年を間近に控えた今、鉄道ファンに限らず是非手に取っていただきたい一冊です。 (図書館 山下智恵)

### 俳句 短歌

早春の光の中へ友遊けり 片桐 洋子  
冬五輪耳に実況目に朝陽 森田 恵子  
灯火の近くて遠き冬山家 木下 眞水  
寒紅をひきて自分を励げまさむ 松岡 照子  
リニア待つ過疎の一村月冴ゆる 宮下 純子  
如月の天竜ゆあみてウオーキング 丸山 時子  
木の香満つ新居に豆を撒きにけり 林 恵美子  
駒ヶ岳の雪代さそふ天竜川 矢島千勢子  
製餡所の煙の甘さか深雪晴 池田 美和  
伊那に春山むらさきを萌し初む 吉川 明子  
初場所や女子は赤きおべべ着て 細井 恵子  
枇杷の花香をあぶ鳥の目を散らし 石田美佐子  
寒泉に一杓を置き奈良井宿 北原 昭子  
(とよおか短歌会)  
満蒙の開拓史学ぶ中学生思い深める人権教育 筒井 恵子  
風越山家族五人で登つたよ初日ポカポカ皆を照らす 小学五年 筒井 爽太  
残照の薄れる空を八の字に黒き鳥影川上に向かう 松尾ヒサコ  
背を伸ばし尻押し歩く大股で冬陽ぼかばかヤングばあさん 福澤貴美恵  
見上げれば窓に灯りを散りばめてビルの谷間にタワー聳ゆる 福澤 郁文  
蠟梅は床の間に咲く一・二輪くれし友似のやさしい色あい 大原真由美  
歌を詠む縁さずかり恙なく九十七歳未だ詠み継ぐ 毛涯百合子  
熱燗のお代わり頼むと鈍子振る彼奴もこの頃親に似て来し 福澤 亀人

本館主催  
**冬期レクリエーション大会**  
2月15日(日)

「家で楽しめました」  
昼神 賢児

昨年引き続き公民館の冬期レク・ポッチャ大会に一家でチームを組み参加しました。前回良い成績を残すことができたので、今年こそ！と特に下の娘と私は気合十分でした。



当日冒頭には、豊丘村出身の金田さんによるクリケット体験が行われました。クリケットは野球に似た雰囲気のスポートで、特にインドでは大人気ということを知っていましたが、実際にどうプレーするかは知りませんでした。すべてが初めての体験でした。正直に言うと、野球よりも相対大変ではと感じました。休憩を挟みポッチャ大会スタートです。八チーム参加で二ブロックに分け総当たり戦を行いました。ポッチャの戦略はこの冬のオリ

勝にてブロック優勝。私が一番真剣に熱くなり娘たちへのアドバイスにも力がこもり、途中で「怖い」と言われる始末。周りの参加者の方々は「家族での参加なんて素敵ね」とお声がけい

可能性を秘めたスポーツ  
**クリケット**  
現役クリケット選手  
金田 紋佳



日本では、あまり知られていない未知のスポーツ「クリケット」。様々な分野に繋げていける可能性を秘めたスポーツです。今回、地元で初めてとなるクリケット体験会では、小学生〜八十代の方々にクリケットの基本的な打ち方と投げ方など、実際の道具に触れ重さや質感も体験していただきました。

当日冒頭には、豊丘村出身の金田さんによるクリケット体験が行われました。クリケットは野球に似た雰囲気のスポートで、特にインドでは大人気ということを知っていましたが、実際にどうプレーするかは知りませんでした。すべてが初めての体験でした。正直に言うと、野球よりも相対大変ではと感じました。休憩を挟みポッチャ大会スタートです。八チーム参加で二ブロックに分け総当たり戦を行いました。ポッチャの戦略はこの冬のオリ

ンピックでも行われたカーリングにとっても良く似ています。標的に対して近ければ勿論良いのですが、最終的に相手チームの直近球内側にくいつ球を入られるので点数が決まるので、お互いどういった戦略でこのゲームを進めようとしているかを推察し、最終形を想像しながらプレーするより立体的にこの競技が楽しめます。

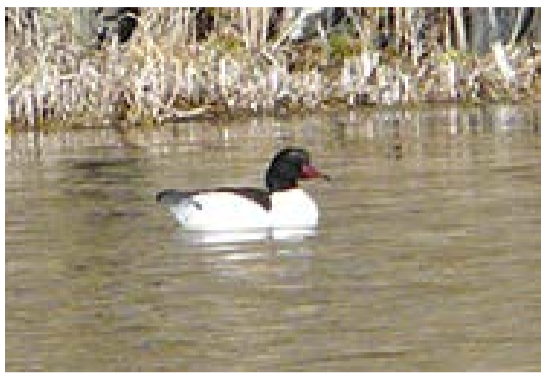
初戦から強敵との対戦。運良く勝利。最終的に三連

ボッチャは年齢性別関係なくどなたでも楽しめます。公民館分館でも行われます。是非機会があれば参加してみてください。

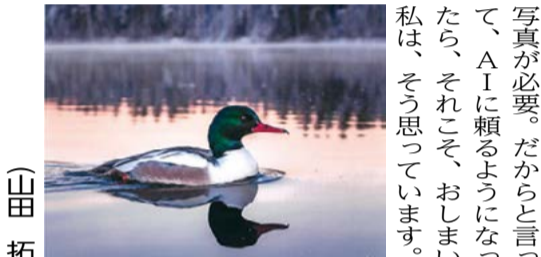
~シリーズ~ **豊丘の自然**

No.265

カワアイサ  
(カモ科)



今月は冬鳥のカワアイサを二枚の写真で紹介いたします。「わざわざ、似たような写真も二枚も使わなくても、よいのではないですか」当り前の疑問ですよね。ところが、...



(山田 拓)



フォトマスター級 宮下正弘

風景写真より  
**面白い人物スナップ**

今まで風景写真を中心に撮影のポイントや、基本構図などを話してきましたがいよいよリニューアルに伴い最後のでじたる修業となりました。風景写真は身近

命をつなぐ親子で触れ合い体操の一コマ。冷たい床に寝転んだ子供は、自由に遊ぶ姿にチャンス待ち足を上げた瞬間を留めた、よく見ると母親は妊婦さん、我が子を優しく見守る姿が弧を描き、護る体制にこの場面はまとも命が繋がった瞬間となった。

怒の中の不安これはまだ一眼レフカメラが無かった頃のコンパクトカメラでの作



品。森の木々が車の窓に映り込み、ハンドルにもたれた女性の横顔にはガラスの色が被り、異様な雰囲気を見せている。よく見ないと何が写っているのか分からないところが面白い作品となった。人物スナップは撮影者の気持ちを大きく表現できる楽しい分野です。

ります。空気抵抗が大きくかかる形をしているため打ち方も特徴的で、投手は肘を伸ばして投げるといいうルールもあります。また、三百六十度どこへでも打つことができ、誰もが楽しめるように用具やルールを合わせてできるといった、自由度が高いのも魅力です。

私に現在、『全球シックス(野球というホームラン)』という究極の技を目指す中で、クリケットから健康や食事・栄養など色々な事に繋げていける可能性があるなど感じています。

性やチャンスがあるなど感じています。今後、クリケットという未知のスポーツを通じて、地元の発展、健康のために、子ども達のためになど、様々な分野に繋げていきたいなと思っています。

大きく開けて表現した。長靴の色がジョロと反対色で作品に面白味を出している。風の中の十字架色を落としモノに近い雰囲気として、撮影中突然に風が吹き髪が舞い上がった。この瞬間を逃さないようにシャッターを切る。瞳がこちらをじっと見つめる強さが、ポートレートとは一風変わった物となり、胸に光る十字架のペンダントを主役として作品としている。

【今回投票率(小選挙区)】  
男性:67.23%(64.43%)  
女性:67.67%(63.96%)  
全体:67.45%(64.19%)  
※(内は、前回選挙の投票率)

【令和八年度に予定される選挙】  
長野県知事選挙八月予定  
(豊丘村選挙管理委員会)

「第51回衆議院議員総選挙・最高裁判所裁判官国民審査」が行われました。

新年早々、一月末に招集された国会冒頭での解散を受けて、衆議院の総選挙が執行されました。今回の選挙は、国会解散から選挙期日まで、まさに短期決戦という異例の選挙となり、注目を集めた選挙ということ、選挙に対する関心も高く、期日前投票におきましては四割を超える投票率となりましたが、選挙当日に降雪ということ

などの影響で全体の投票率は七割弱となりました。また、準備期間が少なかったために、住民の皆様には、入場券や選挙公報の配布など、ご心配をおかけしましたが、無事選挙を執行できましたこと感謝申し上げます。